

### 受託者を選定するポイント

農作業を委託する側と受託者とは、単に垂直的な関係ではなく、パートナーとしての協力関係が築けることが大切です。

単年度の委託料金のみにとらわれず、作業内容、継続性や発展性が、パートナーとして継続する上で大きな選定のポイントとなります。



### 受託者に求められる要件

- 1 経営戦略を理解する能力と姿勢
- 2 専門技術のレベルが高い
- 3 生産性向上に対する意欲とノウハウがある
- 4 コスト削減に対するノウハウがある
- 5 信頼性が高い
- 6 情報の共有化の仕組みができている
- 7 相性がマッチしている



### 受託者が成功するためのポイント

農作業の外部委託が未熟ながら活発化してきた現在、価格や技術力、あるいは付加価値の創造で劣る受託者は発展性が期待できません。

より高度の専門性へ特化するか、関連する他の作業も含めた、より幅の広い分野への進出を図るか、受託者の特長を生かした方向性の明確化が不可欠です。

### 受託者が成功するためのポイント

- 1 常に技術を磨く  
最新技術をメンテナンスしつつ、より高いレベルの能力を維持
- 2 効果を出す運営能力  
どれだけサービスを提供できるか（量的側面）  
どれだけ満足を提供できるか（質的側面）  
利用したいときに利用できるか（タイミング）
- 3 質の高い人材の養成

### 外部委託を活用した営農支援システムのカギ

営農支援システムの成功のカギは、「受委託のシステム化」がポイントになります。

そして、支援システムが当たり前の環境をつくり出せるかどうかは支援システムを「地域のシステム」として構築できるかどうかにかかっています。

これは、受託組織の育成だけではなく、受託者の形成と集中が同時に重要となります。

双方が安心できる仕組み、すなわち「システム」づくりが必要です。

受託者が生まれては消えるという状況では委託する側は施設や機械の保有を考えなければならないし、受託側も毎年一定量の発注量を確保できる見通しがなければ経済行為として継続的に受託を考えることができません。

また、受託者が点となって、バラバラにサービス供給を行っても非効率が生じやすくなります。

受託作業を量的にある程度のまとまりにする努力と、作業自体の規格化を進める努力も必要となります。



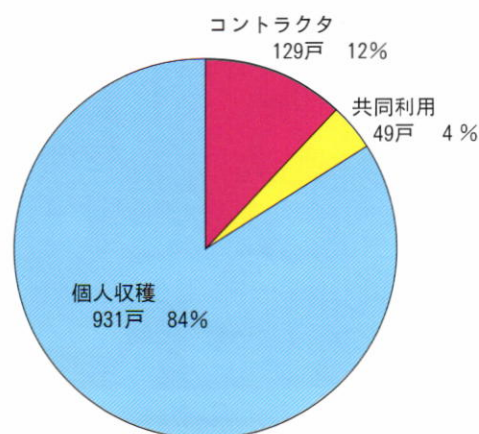
# 支援システムの活用 I (コントラクタ)

機械投資や労働時間の削減に、コントラクタの利用があります。また、粗飼料品質の向上なども見込めます。管内のアンケート調査の結果からコントラクタ利用による効果をまとめました。

## コントラクタの利用状況

南根室管内での粗飼料収穫状況は、コントラクタ利用農家が129戸（12%）、共同利用体系が49戸（4%）、個人収穫が931戸（84%）となっています。

現在利用されているコントラクタ組織は地域内に15組織あります。料金体系には幅がありますが組織により条件が異なります（燃料の負担、草地との距離、1番草と2番草を合わせて委託した場合の割引、作業機の台数など）。このため比較する場合は各組織への確認が必要です。



管内の牧草収穫体系  
(2001 南根室普及センター調べ)

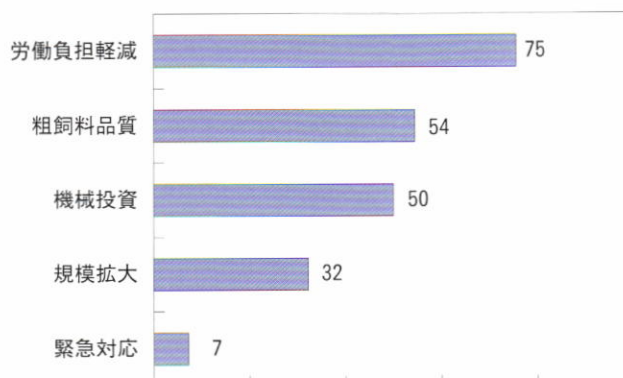
## 受託内容と料金体系

作業名	料金体系
牧草収穫作業	
細断サイレージ	3万円～5万円/ha程度
ロールサイレージ	3万円～5万円/ha程度、3～4千円程度/個
糞尿処理	
堆肥散布	2～3万円/時間
スラリー散布	1～2万円/時間

## 利用のメリットとデメリット

現在コントラクタを利用している農家が、その利用を選択した理由は、労働負担軽減が75%、粗飼料品質の改善が54%、機械投資の抑制が50%となっています。

メリットとしては、労働時間の削減、粗飼料品質の向上、機械のメンテナンスや修理などの負担の軽減などがあり、ほぼ期待どおりの成果が得られました。



コントラクタ選択理由 (%) (重複回答)